

川畑篤輝先生を悼む

経済学部長 山 本 通

川畑篤輝先生は、平成 15 年 8 月 26 日に病気により、現職のままご逝去されました。満 69 歳でした。

先生は、北海道大学文学部史学科を卒業されたあと、昭和 36 年に株式会社電通に入社されました。昭和 49 年には株式会社電通マーケティングに移られ、平成 6 年に至るまで広告およびマーケティングの現場で働いてこられました。その間、日本行動計量学会、日本品質管理学会をはじめ数多くの学会の会員になられ、電通においても数多くの調査研究をされました。それらのご研究を集大成されたのが、平成 7 年 5 月に日刊工業新聞社から刊行された『マーケティング・リサーチの実務～計量的手法の進め方～』です。これは、確率標本にもとづくデータの収集・分析法について、各種標本の抽出法や多変量解析法などの全般をまとめたものでした。

先生は、昭和 49 年から東京理科大学理工学部で非常勤講師として教鞭をとり、平成 3 年からは東海大学短期大学部でも非常勤講師を勤められていましたが、平成 6 年には神奈川大学短期大学部教授に就任され、「市場調査論」を担当されました。平成 8 年から 2 年間教学評議員も務められましたが、短期大学部が廃止されるとともに、平成 12 年に神奈川大学経済学部教授に就任され、「広告論」を担当されました。先生の「広告論」は学生に大変人気があり、教室はいつも学生があふれるほどでした。先生のゼミナールも大変人気があって、入るのが難しいエリートゼミでした。そのような意味でも、先生を失ったことは、経済学部にとって大きな痛手であり、まことに残念でありました。

先生は、実業界と教育界の両方を生きてこられたのですが、先生にとってはどちらが楽しかったのでしょうか。先生は、二・三の方を別にして、経済学部の先生方とはあまり深いお付き合いはされなかったようです。しかし私は、経済学部教員のある懇親会で、先生が、黒沢明監督の映画作品の良さについて熱心に議論されていたこと、を思い出します。そのとき私は、先生の意外な側面を見た気がしていました。神奈川大学での仕事は忙しくもあったでしょうが、多くの学生から慕われて、先生は楽しく毎日を過ごしておられたに違いない、と思います。

川畑先生、どうもありがとうございました。そして、どうぞ、安らかにお休みください。